

[講演要旨] 宮崎県古公文書に遺された明治時代の地震記録

(有) 渡辺探査技術研究所 渡邊 健

1. 宮崎県文書センターの発足と閲覧申し込み

前には宮崎県史編纂室であったが、県史編纂が終了した頃、組織変更で発足した。私は前からお世話になっていたので、明治以降の地震資料を見にこないかと誘われた。資料閲覧には、当方から、閲覧希望資料の名称・関係部課・年代等を記載した申込書を作成して、閲覧希望日の 10 日以上前までに提出しなければならない。名称等は判らないので、何とか先方に理解できるように、年代はやや大きい地震の年月日を書いて提出した。やがて先方から電話で、地震の年月日では探しにくいので、地震の記事は全部抽出したいと言ってきたので、そのようにお願いした。日時を打ち合わせて訪問したところ、机の上の古公文書が 10 冊くらい置いてあり、記事ごとに葉が挟まれていて、さあ御覧下さいというようであった。また、このほかにも、新聞のコピーや気象台発行の関係記事も置かれていた。

2. 宮崎県での地震古公文書の位置付けと内容

地震記事のある古公文書は、「気象 明治〇〇年」と標題のあるファイルであった。年代は明治 21・22・26・27・28・29・31・32.44 年・大正 2・3 年であった。これ以外には地震記事がないか、保存されなかったかは判らない。この外に、「庁中日誌」の明治 32・42 年に各 1 件 1～2 行の地震記事が探し出されていた。

「気象」の地震記事は全て県下の郡役所・町村役場からの地震報告で、震度等は当時の内務省の指示によったものと思われる。県庁自体としての報告は、初期は内務省地理課、その後は震災予防調査会、更に中央気象台と変わっている。その頃には県庁内に宮崎測候所が開設されている。

3. 地震報告について

県内の地震報告は基本的には県知事宛で、報告者は各郡長・町村長である。1 地震の報告数は明治 21・22・26 年は比較的多く最大で 12 ヶ所、最低 6 ヶ所、その後は 1 地震当り報告数は減少している。地震の大小によるかもしれないし、報告書の保存方法の相違かもしれない。報告する郡や村の名前を見ると同一の名前が目立つので、場所により地震の揺れやすさが関係すると思われる。

以上